

巻頭言

教育学習支援センター所長 鳩貝 耕一

新型コロナ禍（COVID-19）が始まってから早2年となります。本学の教育にも Web 活用授業が取り入れられ、当センターを始めとして対応に追われる日々が続いています。このような状況のなかで、教員の教育実践についての多くの地道な研究の成果が、例年同様に本年度も本紀要にまとまりました。投稿していただいた先生方に感謝するとともに、他の先生方にも本紀要への投稿を検討していただけるようお願い申し上げます。

寄稿の中には、当センター業務の一つであるラーニング・アシスタント（LA）の活動に関する研究も含まれています。現在、本学では甲南サーティフィケート制度のもとで正課外活動を活性化するための取組みが数多く執り行なわれています。甲南サーティフィケート制度は、大学基準協会による本学の 2020 年度大学評価でも高く評価されました。

当センターが担当するラーニング・サポート（LS）・サーティフィケートについても、本年度は 1 級や 2 級を取得する学生が出るなど大きな変化がありました。LA たちが自主的に組織し、LA 活動を中心とした学内のピアサポート活動を取りまめるラーニング・サポート・チーム（LST）が結成され、すでに活発な活動を開始しています。この LST の正課外活動（とは言っても、彼らがサポートする主な対象はアクティブ・ラーニング型の授業です）の成果は、LS サーティフィケートの得点に直接間接的につながります。LS サーティフィケート 1 級を目指し新たな目標ができるなど、LST の組織的活動と LS サーティフィケートが車の両輪となって、彼らの活発な活動に結びついています。

甲南サーティフィケート等を含め、平生鈇三郎の教育理念に基づいた本学の教育に関するご研究について、今後もぜひ投稿していただきたく存じます。このような研究成果については、当センター紀要への投稿だけでなく、FD 活動等を通じて全学的に議論していくべきものだと考えています。このような活動を通じて、本学の教育活動の実践交流と質的發展に寄与していただけるならば幸いに存じます。